

【 診療科:消化器外科 】
 【 レジメン登録番号:SG-95 】

〈 FOLFIRI+Ramucirumab療法 〉

	投与量	投与経路	投与スケジュール(day)														
			1	2	3	4	5	6	7	8	14		
サイラムザ	8mg/kg	div	○														
イリノテカン	150mg/m ²	div	○														
レボホリナート	200mg/m ²	div	○														
フルオロウラシル	400mg/m ²	全開div	○														
フルオロウラシル	2400mg/m ²	civ	○														

【1コース期間: 14 日】 【総コース数:規定なし】

【適応癌種: 結腸・直腸癌】

【時期: 術前、術後 **手術不能・進行・再発**】

【休薬・減量に関する要件】

項目	基準	減量内容	休薬時の再開基準

投与プロトコール

〈第1日目〉

Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1	デキサート 9.9mg	div(30分で)
	ボラミン 1A	
	5-HT ₃ R Blocker 1A	
	生理食塩水 50mL	
Rp.2	サイラムザ 8mg/kg	div(60分で) 初回投与の忍容性が良好であれば、 2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。
	生理食塩水 250mL	
Rp.3	生理食塩水 50mL	div(15分で)
Rp.4	レボホリナート 200mg/m ²	div ^{*1} (120分で)
	生理食塩水 250mL	
Rp.5	イリノテカン 150mg/m ²	div ^{*1} (90分で)
	生理食塩水 250mL	
Rp.6	フルオロウラシル 400mg/m ²	全開div(10分以内で)
	生理食塩水 100mL	
Rp.7	生理食塩水 50mL	div(全開で)
Rp.8 ^{*2}	フルオロウラシル 2400mg/m ²	civ(46時間で)
	生理食塩水(別紙希釈表により注入 ^{*3})	

【参考文献:サイラムザ点滴静注液添付文書、The Lancet Oncol 2015;16:499-508

【備考:※1…イリノテカンとレボホリナートは同時投与。

【備考:※2…Rp.8は携帯型ディスポーザブル注入ポンプ使用を原則とする。ポートがない場合は入院で施行する場合もある。

インフューザーポンプは、パクスター-SV2.5を使用。

入院の場合は、5-FU 2400mg/m² + 生理食塩水 500mL div(46時間で) でも可

【変法情報: